

放流水水質検査結果

し尿処理施設では、関係法令に基づき、放流水の水質測定を行い、施設の適正管理に努めています。

下の表は２７年度における、し尿処理から排出される放流水の水質検査結果です。

(し尿処理施設)

検査日	p H	B O D mg／ℓ	C O D mg／ℓ	S S mg／ℓ	大腸菌群数 個／cm3	全窒素 mg／ℓ	全りん mg／ℓ	検査結果
H27. 4. 30	7. 4	0. 5	1. 1	<1. 0	<30	1. 0	<0. 01	○
H27. 5. 14	7. 3	<0. 5	1. 1	<1. 0	<30	1. 0	<0. 01	○
H27. 6. 11	7. 5	<0. 5	1. 1	<1. 0	<30	1. 0	<0. 01	○
H27. 7. 9	7. 4	<0. 5	1. 0	<1. 0	<30	1. 2	<0. 01	○
H27. 8. 20	7. 6	<0. 5	0. 9	<1. 0	<30	1. 1	<0. 01	○
H27. 9. 10	7. 5	<0. 5	0. 7	<1. 0	<30	0. 9	<0. 01	○
H27. 10. 8	7. 5	0. 9	1. 0	<1. 0	<30	1. 2	<0. 01	○
H27. 11. 12	7. 4	<0. 5	0. 7	<1. 0	<30	0. 8	<0. 01	○
H27. 12. 10	7. 4	<0. 5	0. 6	<1. 0	<30	1. 0	<0. 01	○
H28. 1. 14	7. 4	2. 1	0. 9	<1. 0	<30	0. 8	<0. 01	○
H28. 2. 4	7. 6	0. 7	<0. 5	<1. 0	<30	0. 5	<0. 01	○
H28. 3. 10	7. 4	<0. 5	1. 3	<1. 0	<30	1. 1	<0. 01	○
自主基準値	6. 6～8. 4	5. 0	3. 9	2. 9	300	3. 5	0. 05	
法規制値等	6. 5～8. 5	5. 0	10. 0	5. 0	300	5. 0	1. 00	

※この水質検査結果は、油ヶ淵漁業組合との協定に基づき、毎月１回行われる分析業者による分析結果をもとにしています。

用語の説明

p H	溶液中の水素イオン濃度を示す尺度で、酸性、アルカリ性の度合を示します。数値が小さくほど酸性、数値が大きいほどアルカリ性の度合が強く、p H 7 が中性です。
B O D	有機物による水の汚濁の程度を示す指標で、水中の汚濁物質が20℃で5日間のうちに微生物により酸化分解される過程で消費される酸素量をmg/l(水１リットル当たり消費される酸素のmg数)で表します。BODが高い(数値が大きい)ことは、その水の中に微生物により分解されやすい有機物が多いことを意味し、これが河川に流入すると、河川の水の中に溶けている酸素(溶存酸素(DO))という。)を多量に消費し、魚介類に被害を及ぼします。
C O D	BODと同じように、主として有機物による水の汚濁の程度を示す指標で、水中の汚濁物質を100℃で酸化剤(過マンガン酸カリウム)で酸化するときに消費される酸素量(水１リットル当たり消費される酸素のmg数)で表します。この値が大きいほど汚濁が進んでいることを意味します。
S S	粒径2mm以下の、水に溶けない懸濁性の物質のことをいいます。一定量の水をとってろ過したあと、残留物を乾燥してその重量を測り、それを水中の濃度(水１リットル当たりの重量mg数)で表します。浮遊物質には無機質のものと有機質のものが、数値が大きいほど水質汚濁が進んでいることを示します。
大腸菌群数	人や動物の糞便中には大腸菌が多く存在するため、これを測ることにより糞便による汚染の程度を知ることができます。大腸菌群には、人や動物の腸内に生存している大腸菌と水中、土壌など広く自然界に分布している細菌とがありますが、それぞれ分離することが困難であるため、一括して大腸菌群としています。
全窒素	窒素は空気中に約80%含まれる物質でありそれ自体は無害ですが、水中の栄養塩類としては閉鎖性水域の富栄養化の原因となる物質の一つです。水域の栄養塩類は、生活排水、工場排水などにより供給され、藻類などの植物性プランクトンの著しい増殖による赤潮やアオコ、青潮の発生の原因となります。溶存態の無機窒素と有機態窒素及び懸濁態窒素これらすべてを全窒素と呼びます。
全りん	窒素とともに、水中の栄養塩類として閉鎖性水域の富栄養化の原因となる物質の一つです。窒素と同様に、溶存態の無機りんと有機態りん及び懸濁性りんに区分され、これら全てを全りんと呼びます。生活排水、工場排水、農業排水などにより閉鎖性水域に供給され、栄養塩類の増加による富栄養化を引き起こします。